

令和3年度 学校評価報告書（目標設定）

	視点	1年間の目標	取組の内容	
			具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・教科横断型のカリキュラムマネジメントを実践する。 ・総合的な探究の時間のあり方を研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力・判断力・表現力を重視した生徒主体の授業を実践する。他教科の授業見学及び研究授業の実践を多く取り入れる。 ・課題研究を通して、継続的に問題解決能力を育成する指導計画を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科または全体での振り返りで、授業改善がみられたか。生徒による授業評価の結果で、充実した学びができたか。 ・課題研究活動が生徒のキャリアに繋がっているか（アンケート）。
2	生徒指導・ 支援	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒を取り巻く個別・全体的な状況の把握に努めるとともに職員間での情報共有を行い、生徒・保護者が相談しやすい教育相談体制の構築を行う。 ・生徒の規範意識を醸成するとともに、相互コミュニケーションの在り方を考えさせる指導を行う。 ・自主自立につながる生徒支援体制を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各年次や保健室、カウンセラーとの連携・情報交換を行い、生徒の状況の早期把握に努める。教育相談やこころの悩みの相談についての情報提供を適切に行う。 ・インターネット上のコミュニケーションツール等の適切な活用と他者の人権への配慮を指導する。 ・生徒の自主的な活動が、組織全体の動きを見通した形で運営できるよう指導助言を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の状況や変容に気づき、職員間での情報共有をもとに適切な対応ができたか（振り返り）・職員が様々なコミュニケーションツールについて理解し生徒への指導・助言が適切に行われたか。（振り返り） ・生徒の活動を把握し、適切な指導・助言が行われたか。（振り返り）

	視点	1年間の目標	取組の内容	
			具体的な方策	評価の観点
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自らが学力を把握し、目標設定ができるように指導する。 教育活動における ICT の活用を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内外で実施する各種説明会や模擬試験などを通じて、学力の充実に向けて主体的に取り組むことができるよう定期的に働きかけを行う。 生徒一人ひとりが ICT 機器を活用して、高大接続改革や大学入試改革、海外進学など必要となる情報を主体的に入手、活用できるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ガイダンスルームやチューター制など、様々なガイダンス機能を生徒自身が積極的に活用しているか。 各種説明会や模擬試験の意義を理解し、生徒自身が事前に目標を設定し、意欲的に取り組むことができているか。 大学が掲げるアドミッションポリシーや学部・学科の特徴やキャリア目標を把握し、生徒自身のキャリア意識と結びつけることができているか。
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> 広報活動を通して、地域に開かれた学校づくりを実践する。 高大連携の活動を通じて、地域貢献・国際貢献に関する意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会および Y I S 英語スピーチコンテストを、生徒主体で企画・実践する。 サマープログラムを通じて、東京外国語大学の授業を体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会および Y I S 英語スピーチコンテストにおいて、地域の中学生および保護者に本校の取組みを理解いただけたか。（アンケート） 東京外国語大学の体験授業を通じて、貢献活動に関する意識を高められたか。
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ワークライフバランスを考慮したうえで、校内のさまざまなしくみを整備し、皆が働きやすい環境を整える。 不祥事防止を全校的な取組として徹底していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事予定表や清掃、消毒分担表などについて再吟味し、よりよいものにしていく。あわせて時差出勤などを利用しやすい環境を作っていく。 不祥事防止会議の内容を充実させるとともに、情報の伝達に努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境美化に対する意識が向上し、生徒や教員の清掃の負担軽減に繋がったか。 不祥事の事例を、他人ごとではなく、自らの問題として認識することができたか。（アンケート）